

アニメの主人公などになりきって変装し、非日常の世界を楽しむコスプレ。日本生まれのオタク文化をビジネスに仕立て、行き場を失った若者の就業機会につなげようと奮闘する女性がいる。経営コンサルタンの安藤ゆかり。本業の傍ら、6月にベンチャー企業「レイヤーズシティ」(川崎市)を設立した。

安藤は言う。「化粧をし、変装をして憧れの別人になった瞬間、引きこもっていた若者が人前に出られることがあるんです」。素顔は出せないがヒーロー、ヒロインの姿でなら街を歩ける。むしろ目立ちたいと願う。それが「コスプレの魔法」だと安藤は話す。

レイヤーズシティ社長

安藤 ゆかりさん

ホップ ステップ



あんどう・ゆかり 1982年にソニー入社。リクルート、リクルートコスモス(現コスモスイニシア)に勤務。92年、経営コンサルのアセツトパートナーズ(東京・千代田)の設立に参画。企業再建・承継コンサルタント協同組合(CRC)の創業メンバーでもある。

ならコスプレイベントに誘ってみたい」と勧められた。長女が再び外の世界に目を向ける契機となり、レイヤ

コスプレをビジネスに

をとる20歳前後の若者の中に安藤の娘もいる。引きこもりの時期もあったが、同じ境遇の若者と出会い、今やコスプレ姿でイベントの司会を務める。「コスプレを事業化してニートの社会復帰を手助けしたい」。そ

れが起業の動機になった。安藤には2人の恩人がいる。1人は復刻ゲームソフトを企画販売するD4エンタープライズ(東京・千代田)社長の鈴木直人。経営事、牟田口雄彦だ。「コスプレはD4のコスプレ部門を引き継ぐ形で創業した。もう1人は川崎市で起業塾などを運営するアジア起業家村推進機構の専務理事、牟田口雄彦だ。「コスプレで日本とアジアをつなぐ架け橋をつくらう」。起

ニートの社会復帰 支援

業の夢を抱く安藤の背中を強く押した。

7月に中国・上海であった娯楽産業の見本市。本場の日本から訪れたコスプレチームに観客の注目が集まった。地元テレビ向けに日本のコスプレ文化を紹介する番組の交渉も始まった。今は尖閣問題で中断しているが「アジア進出は経営の重要な柱」と安藤は話す。国内では年内にも東京・秋葉原にコスプレ・カフェを開業する。大手ゲーム会社などの支援で店員が新作ソフトに合わせて衣装を替えたり、撮影会を開いたりする。

事務所では他にも人との接触が苦手な若者が非常勤で働く。「彼らが一歩外に踏み出すきっかけを与えたい」。安藤の挑戦は始まったばかりだ。

敬称略